

1. 内政

【新首相候補指名を巡る動き】

▼4日、ストゥルザ内閣の信任投票不成立。

- ・3日、ストゥルザ首相候補は組閣案および政府行動計画案を議会に提出。
- ・4日、モルドバ議会特別全体会合が召集されるも、出席議員は総数101名のうち47名(自由民主党、自由党、無所属議員が中心)に留まり、定足数不足により不成立。
- ・カンドゥ議長は、右により首相選出の試みは否決されたとみなされ、ティモフティ大統領は新たな首相候補指名のための会派との交渉を始めなければならない旨述べた。

(参考: ストレツ前内閣解任から3ヶ月となる1月29日までに新内閣が成立しない場合、議会は解散され期限前選挙が実施される。)

▼5日～、ティモフティ大統領は首相候補指名に向けた議会会派との協議を開始。

- ・大統領は、多数派の形成においては国民の親欧州的への配慮が必要な旨、また首相候補は汚職疑惑のない清廉な人物であることが必要な旨を強調。
- ・最大会派である社会党(24議席)は大統領との協議を拒否、国会解散と期限前選挙の実施を求めた。
- ・共産党は大統領との協議の場に現れず。

▼11日、新たな議会内多数派(56名)が成立。

- ・内訳は、社会民主議会プラットフォーム(35議員)、自由民主党の一部(8議員)及び自由党(13議員)。ルブ国会議長・民主党党首及びギンブ自由党党首が共同で発表。
- (参考: 社会民主議会プラットフォームは昨年12月に結成された議会会派で、民主党議員20名、元共産党議員14名、元自由民主党議員1名から成る。)

▼13日、議会内多数派はブラホドニク第一副党首を首相候補として推薦。

- ・同日、ティモフティ大統領はこれを拒否、14日正午までに新たな候補を推薦するよう求めた。
- ・自由民主党は同候補への反対を表明。市民プラットフォーム「尊厳と真実」は「ブ」候補に対する抗議運動を継続。
- ・13日夜、議会内多数派の各会派代表は共同声明を发出、大統領に対して「ブ」首相候補の指名を改めて求めた。
- ・ウサトゥイ「我らの党」党首は大統領の弾効の可能性に言及。ドドン社会党党首は弾効への反対を表明。
- ・14日、議会内多数派から自由民主党議員5名、元同党議員1名、自由党議員2名が離脱し、過半数割れとなったとされた。ただし民主党はこれを認めず、離脱議員は1名のみであると主張。

▼14日夜、大統領は、議会内多数派がもはや存在しないとして、パドゥラル大統領府事務総長を首相候補

に指名。

- ・議会内多数派は大統領に指名撤回を要求。15日朝には議会内多数派55議員の署名に基づきフィリブ民主党副党首(IT・通信相代行)を首相候補として推薦。

▼15日夜、大統領は議会内多数派の存在を確認できたとしてパドゥラル候補の指名を撤回、フィリブ民主党副党首を首相候補として指名。

- ・欧州人民党(15日)及び自由民主党(16日)は「フィ」候補への反対を表明。
- ・社会党及び「我らの党」は期限前選挙の実施を主張、16日にそれぞれ大規模なデモをキシニョフ市内で実施。

【その他】

▼5日、フィラト元首相(自由民主党党首)の勾留期間が更に90日延長。

- ・同元首相は10月15日に逮捕され、10月18日、11月11日および12月10日にそれぞれ30日ずつ延長されていた。

2. 経済

▼モルドバ中央銀行は年利19.5%の金融政策金利の維持を決定。(2日報道)

- ・中期インフレ率を5%±1.5%に抑制することが目的。

▼在モルドバ独大使館は2015年の対モルドバ小規模プロジェクト支援について発表。(2日報道)

- ・同年には600件の融資申請が行われ、計10件の小規模プロジェクトに総額6万1千ユーロの支援を実施。

▼財務省は2015年の対モルドバ無償支援の概要を発表。(5日報道)

- ・総額18億レイで、内訳は米国13億レイ、世銀8750万レイ、その他ドナー2億3120万レイ。IMFの支援が停止中のため、財政支援は含まれず。

▼国家統計局は2015年1～11月の経済指標を発表。(6日報道)

- ・輸出は18.03億ドル(対前年同期比16.4%減)、輸出は36.34億ドル(同24.5%減)。輸出減の主な原因は対CIS輸出の急激な減少(34.4%)。

▼2015年末現在のモルドバの外貨準備高は17億5,600万ドル。(12日報道)

- ・モルドバ中央銀行によると、前年末から4億ドルの減少で、2010年の水準まで落ち込んだ。

▼2015年9月現在のモルドバの二国間対外債務(二国間ベース)は1億9,600万ドル。(13日報道)

- ・同年年初から比較して15%増。
- ・主な債権国は日本、ロシア、米、独、澳。

▼国家統計局は2015年のインフレ率を発表。(14日報道)

・2015年のインフレ率は過去9年間で最高となる13.6% (2014年は4.7%)。なお中央銀行による年初の予想インフレ率は4.6%であった。

3. 外政

▼対トルコ・ドイツ関係

- ・12日、ブレガ首相代行はイスタンブールで発生した自爆テロに関し、トルコ首相に対する見舞いのメッセージを発出。
- ・13日、ゲルマン外相はトルコ及び独逸の外相に対してそれぞれ見舞いのメッセージを発出。

▼対ルーマニア関係

- ・13日、ティモフティ大統領は、ヨハニス・ルーマニア大統領に対する共和国勲章授与に係る大統領令に署名。

4. トランスニストリア

▼1日より最低年金引き上げ。

- ・従来より10ルーブル増の616ルーブル(1,100レイ相当)に。7月1日からは更に632ルーブル(1,128レイ相当)に増額予定。

▼6日、ブロックディン「首相」が就任。

- ・シェフチュク「大統領」によって推薦され、「最高会議」(議会)により承認。
- ・「プ」「首相」はロシア生まれ・ロシア育ち。前職は Tighina 要塞記念コンプレクス代表で、同要塞の改修・保護に携わった。

▼11日、カラシン露外務次官の発言。

- ・インターファクス通信のインタビューにおいて、トランスニストリア紛争解決交渉において進展が見られないことに懸念を表明するとともに、ウクライナ政府の対応を批判。
- ・「ト」地域に対してウクライナとモルドバが共同税関・国境管理を導入した場合には、「ト」地域の生産者にかかる追加的課税は400万ドルを超えるとした。

5. その他の情勢

▼9日、キシニョフ中央市場にて爆発事故が発生。

- ・カフェのガス管が爆発し、17名が火傷。うち重傷を負った3名はブカレストの火傷センターに搬送された。

6. 二国間関係

▼1日、在モルドバ日本大使館がキシニョフに正式開館。

(了)